2025年5月24日

人権ネットワーク八幡　NEWS

事務局　〒523－0857 近江八幡市八幡町170（旧八幡教育集会所内）
電話　【携帯】　080－2525－7114(高坂)
【メール】 Tko.koj1224@yahoo.co.jp

西村優汰さんからお便り

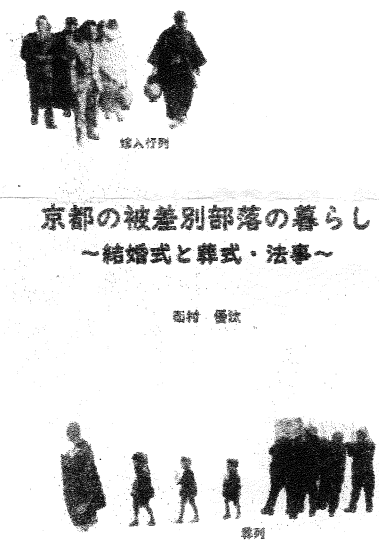
春の暖かさが感じられる頃となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

大変ご無沙汰しております。佛教大学の西村優汰です。

昨年八幡町にお伺いした際は、大変お世話になり、ありがとうございました。おいしい「洋食/ようしょく」を頂いたり、革製品に関する話をお聞かせくださったり、願通寺様をご紹介いただいたりと、多大なるご協力をいただき、改めて御礼申し上げます。

さて、私事ですが、3月で大学院修士課程を修了し、4月からは同じく佛教大学の博士後期課程に進学いたしましたことをご報告させていただきます。

修士論文は「近現代の京都の被差別部落における民族文化」として、京都市内の田中・千本・東三条・西三条・七条の5つの部落における結婚儀礼と葬送儀礼を明らかにしました。



当初の計画では、京都だけでなく、八幡町を含め滋賀県の事例も合わせて研究しようと考えていたのですが、その後、指導教員とのやり取りの中で、修士論文は京都市内に限って執筆することになりました。

皆様に貴重なお話を聞かせていただいたにも関わらず、研究できず申し訳ありませんが、次の博士論文では、是非八幡町の事例も取り上げて研究していきたいと考えております。

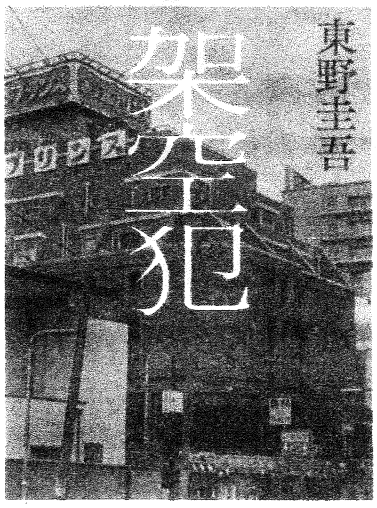
修士論文の執筆を終えてみると、かつての被差別部落では。経済的に厳しい生活を送る人が多かったこととは対照的に、非常に派手な文化があったことが分かりました。被差別部落は貧しく劣悪な住環境であった一方で、豊かな文化を持ち、そうした文化に囲まれた環境であったことを考察しました。

完成した修士論文をお届けしようと考えたのですが、聞き書き部分も含め相当なページ数になることに加え、以前、卒業論文を地域の方（話者）にも配った際「せっかくもらったけど難しくて読めない」とのご意見をいただいたことから、今回は修士論文の内容を要約し、なるべく読みやすい文章で、写真を中心に見ていただけるように編集して、小冊子にまとめました。勝手ながら3部同封しておりますので、ご回覧いただけましたら幸いです。

また八幡町にも伺いたく思っておりますので、その際はどうぞよろしくお願いします。季節の変わり目となりますが、皆様お体にはお気をつけてください。

読書の草原

「架空犯」　東野圭吾著　幻冬舎刊　2200円＋税



昨年暮れ、「年の最後にやっと出た本年最高のミステリ」と話題になった東野圭吾さんの新作が刊行されました。タイトルは「架空犯」。『白鳥とコウモリ』で活躍した警視庁捜査一課の五代努刑事が活躍する五代刑事シリーズの第２作となる作品です。

東京都下の高級住宅街で火災が起き、焼け跡から都議会議員とその妻の遺体が発見されます。２人の死因は絞殺による窒息死。捜査を開始した五代は所轄のベテラン警部補と組んで聞き込みに回りますが、相方の言動に違和感を覚えるのでした。その違和感を探っていくと・・・。どんでん返しの繰り返しの中から、次第にタイトルの意味が浮かび上がってくる構成には脱帽です。設定の奇抜さやトリックの巧妙さが売り物のミステリが多い中、事件に関わる人たちの人間模様が丁寧に描き込まれているのが東野圭吾作品の魅力だと思います。

最後の最後にこの物語を締めくくるのが「タネヤのバウムクーヘン」という我々には憎い演出で終わる作品でもあります。

（水来亭平助）

本年度も、本会へのご参加ありがとうございます

先日(10日)の総会に参加いただいた会員のみなさん、また新年度に入って会費を納入していただいた多くの会員のみなさん、本当にありがとうございます。「活動拠点をどうする」という、発足以来、最大の課題に直面していますが、今後も皆さんのご支援・ご協力をよろしくお願いします。なお、年会費は以下の通りです。

個人会費(一口)=1,000円　　団体会費(一口)＝10,000円

人権映画見て歩記　file 113

かつてこのコーナーで紹介した『ブータン 山の教室』が世界で絶賛されたパオ・チョニン・ドルジ監督の待ちに待った長編第2作『**お坊さまと鉄砲**』を紹介します。2006年、ブータンでは国王が退位すると同時に政権を返上し、民主主義国家として初の選挙が行われました。そんな史実を背景に作られた物語です。

当時、選挙についてまったく知らない国民のために、啓発活動が行われました。ウラ村にはツェリンという担当者がやって来ます。ツェリンはブータンを先進諸国に負けない民主主義の国にしようとやる気満々。まずは模擬選挙を村人に体験させようとします。ところが集まった村人たちは「民主主義なんかなくても国王の下で幸せに暮らしてきた。」とまったく関心がありません。ツェリンたちは、赤青黄３色の架空政党を提示し、村人を無理やり３つに分けて、それぞれが競い合うように仕向けてみたものの、争いを好まない村人たちはのってきません。チョベル一家なんか選挙騒動で家庭も混乱していました。父親のチョベルが近隣の人と違う政党を支持したことで、地域で孤立してしまいます。娘のユベルが学校でいじめに遭うに至っては、母親が「民主主義なんかいらない。今まで通りの家庭に戻してほしい。」とチョベルに食ってかかるありさまです。

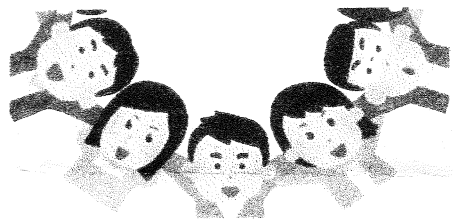
その頃、この村では高僧のラマが瞑想修行していました。ラマは選挙が行われることを知ると、模擬選挙の日に特別法会を行うと言い出し、なぜか銃を用意するよう命じます。弟子のタシは銃を手に入れるために村中を探し回り、ある家に銃が残されていることを知ります。しかしその銃は骨董価値が高く、たまたまアメリカから来ていたコレクターが大金を用意して手に入れようとしていました。銃の行方を巡ってひと騒動起きます。そんな中で行われた模擬選挙の結果やいかに!?

2006年の選挙の成功で、ブータンは平和裏に政権譲渡を成功させた国として名を残すことになります。どのように近代化を進めるか、慎重に検討を重ねているということです。「国民の幸福度が一番高い国」と言われるブータンが新しい国づくりに向けて歩み出す姿を、ユーモアとひねりの効いた結末で描いてみせたパオ監督には今後も期待しましょう！

(見て書いた人…渡邊幸平)

所外雑記

ランブリングボーイ



ここは西の庄の西井義さん宅の一室。この日、坂本からやって来た山田竹春さんは西井さんのお孫さん相手に、持参の竹トンボを飛ばしたりリンゴの皮をむいてあげたり、めっちゃええおじいさん振りであった。

それから、もう一人の来訪者の一正が若かりし頃の活動についてあれこれ聞いていった。

「あの頃、哲ちゃん(大津市協・委員長)と一緒に地区内を一軒ずつ歩いて回り、地主から買い取った土地を行政へ売るように説得していた。反対派の○○の家に入る時はどつかれるかもしれんと思ったわ」

「ほんで、中学卒業した若い衆に現業(公務員)につくように言ったり、青年部が中学生学習会を支援していたのは、やっぱり高校に入って安定した仕事につかす為やった」

「八幡町にもよう来たなあ。岡林や西井さんらと一緒に作った歌のレコードが、この前見つかったんや」

その歌が『ランブリングボーイ』だ。

♬　あいつは男　一緒に苦しみ　一緒にさまよった　　雨の日も風の日も　今、祈る流れ者
　　この旅に幸あれと　今、祈る一人旅　　あいつに幸あれと　♬

竹春さんはこの歌を口ずさみながら「この歌は、その頃一緒に活動していた△△の事や」と懐かしそうに語っていた。こうして春の一日はゆっくり暮れていった。　(TK)